



JAC ヒマラヤ環境調査トレッキングに参加して 大西 攻

4月23日(水)から5月13日(火)まで21日間のエベレスト山群イムジャ氷河湖とカラタパールトレッキングに参加した。今回は単なるトレッキングではなく、地球温暖化による氷河の後退が進んでいるヒマラヤのイムジャ氷河湖の下流域調査に協力することを含んでいた。参加者は17名でグループ分けて地域住民の、1)人口調査、2)意識調査、3)環境調査、4)建造物の測地調査の4つの調査テーマに絞った。私は測地調査隊に属して流域の橋(つり橋)水力発電所、住家などの川底からの高さ、位置、標高などを計測した。計測器は、軽量でコンパクトさと簡便なものを選ぶと、ニコンのレーザ距離計、GPS、デジカメ、コンパスグラスを使用することにした。計測結果の報告は、現在リーダーの西田氏がまとめている最中である。ネパールで最初に滞在したカトマンズの街中は埃だらけで汚くカルチャーショックを受けた。その上ルクラまでの飛行予定が1日延期、1週間続いた最悪な下痢もはじまった。

ルクラからドゥードゥコシ沿いの降下気味の道をバクディンへとトレッキングが始まり、バクディンからナムチェ、タンボチェ、名峰のアマダブラムが直ぐ近くに見えるディンポチェと進み、エベレスト山への道と別れてチュクンに向かう。チュクンでは高度順応を兼ねてチュクンピーク(約5400m)を回復する。

翌日はイムジャ氷河湖付近で慶応大学の福井先生が調査・研究をされているベースキャンプを訪れた。標高は5000mを越えている。福井先生はNHKの取材中のためアイランドピークの麓で行動している最中であつた。キャンプ居残りの研究員から調査・研究の説明を聞きながらモレーンの上からイムジャ氷河湖を望む。周りのモレーンを見る限りでは決壊洪水が起きるまでにはまだ時間がありそうに私は思えた。氷河湖の湖面はまだ氷結が融けてなく、湖底深度の計測するために折角運んだボートが使用出来ない状態である。氷河湖から小川のように流れだしている地点の先で地質調査の専門業者から説明を受ける。(写真1)

そして帰路の途中で急いで下山してきた福井先生(写真2)にお逢いして説明を聞くことができた。今日のスケジュールはチュクンで泊る予定であつたが、チュクンでは昼食の休憩だけで翌日の予定になっているディンポチェまで下山した。計画の遅れを取り戻した翌日は、ディンポチェからロブチェに辿り着く。カラタパール登頂のためには2時半起床、3時半出発、久しぶりに暗い山道をライトの光で歩き出した。ゴラクシェブで一息入れ呼吸を整えながら大きな丘に登るような道に登る。登るにつれて天気も良くなりエベレストの山頂も姿を見せ始める。カラタパール山頂に着いた時はヌブツェ、チャンツェ、ブモリなどの巨峰が青空の中に輝いて見わたせる。(写真3)

今回のトレッキング主目標は、これでほぼ達成できた。帰路はロブチェでもう一泊してパンボチェ、エベレストビューホテル、ルクラと宿泊してカトマンズに戻った。

今回の私達のグループはイムジャ氷河湖までの道々で、計測の必要と思われる所では立ち止まって計測に没頭した。それが登りの疲れを忘れさせる効果があつた。また、パルスオキシメ

ータでの酸素飽和度数値測定は、高度順応のパラメータとして体調管理に必要な装備である。(表1)



写真1: 氷河湖からの流れ



写真2: 福井先生の説明



写真3: 巨峰をバックに

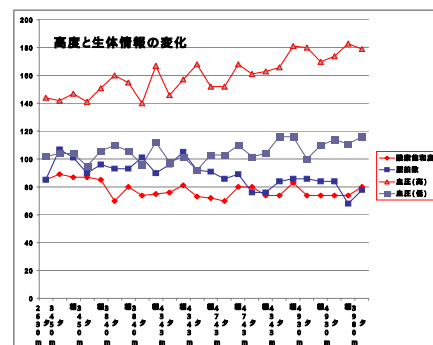


表1: 高度と生体状況の変化

メーリングリストより

この度の岩手宮城内陸地震で被害を被られた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

今月当初から例会で話題にしていた地震における河川堰き止めの問題が、今回の地震でも現実の問題になってしまいました。

AGC のメーリングリストにはたびたび遠山さんからのレポートなどでこの問題が報告されていますが、メールを見ない方もいると思いますので、抜粋してとりあげることにいたします

日本の堰止湖の崩壊

遠山 元信

先日例会で大西さんにより温暖化現象によりヒマラヤの氷河湖が決壊しそうな問題が紹介されました。さらに同様な問題で、中国での四川大地震における土砂崩れによる河川堰き止め湖が崩壊しそうな問題はニュースで連日紹介されていたので多くの方がご存知かと思えます。実は日本で同様な問題で甚大な被害が発生していた話をちょっとしましたが、インターネットを見ていただければ詳細が判りますので紹介しておきます。

問題は 1847 年 5 月 8 日(弘化 4 年 3 月 24 日)、長野県の善光寺平(ぜんこうじだいら)を震源とした直下型地震が発生、俗に善光寺地震(ぜんこうじじしん)と言われており、マグニチュードは推定で 7.4。善光寺御開帳の年だったことから被害は甚大でした。この時に長野市の南西、長野市信更町蒲池の上にある虚空蔵山(岩倉山)が崩壊、その土砂が現在の国道 19 号線の犀川に掛かる水篠(みすず)橋付近に流れ落ち、犀川を堰き止めてしまい堰の高さは 65m ぐらいいったと言われていました。場所は長野市から国道 19 号線を信州新町方面に走り、白馬長野有料道路 IC を通過した先の橋付近です。その橋から川の中を見れば当時の岩の残骸らしき物が残っています。この犀川が堰き止められてしまったことから下流では崩壊するのではないかと松代藩まで巻き込んだ大問題となりました。その予想的な中してしまい、下流の川中島などを中心に土石流で大きな被害が発生しました。下記のアドレスに詳細が紹介されています。(アドレス省略:6/18 付遠山さんのメーリング参照ください)

虚空蔵山の山岳崩壊は山体全体が犀川方面に崩れてしまったから大変だったのです。みすず橋のところから犀川を覗き込むと川の中に大きな石が転がっています。これが痕らしいのですが、どこにでもありそうな石にも見えます。

この堰止湖について松代藩も危険と判断し調査を行い対策を検討、しかし崩壊してしまいました。善光寺平が地震に続き水害にも遭遇してしまいました。どこかの何かで詳細な内容を読んだことがあるのですが、ずいぶん前なので思い出せません。また埼玉県の旧大滝村の古文書の中に、この善光寺平地震が記録されている部分がありました。この善光寺平地震は被害が甚大で、武水別神社があるあの宿場が全焼したのも、間違いなければ、この地震の時だったと思います。千葉にある国立歴史民族博物館で災害の展示会の時に、それが詳細に紹介されていました。

また長野市西方にある中条村の虫倉山をご存知ですか。この虫倉山も善光寺平地震の時にあちこちで山岳崩壊を起こし、崩壊防止工事は現在でも続いているそうです。何年か前に日本地震学会が長野で総会を開催、これらの山の見学ツアーが組まれたそうです。また先日地図を見ていましたら、等高線の状況から虚空蔵山のように崩壊したと思われる山と遭遇しました。詳細は判りませんが、福島県の半田山 863.1。崩れた土砂と思われる中に池が存在することまで同じだったのには驚きました。

(2008/6/8, 6/12 付 mail より)

図書・資料の紹介

日本鉄道旅行地図帳 北海道編(概刊) 新潮社
ユニークな情報満載の地図帳です。鉄道マニア以外でも楽しめ

る内容満載。全国を 12 巻でカバー、毎月刊行。各 680-
世界地図 101 の謎 河出書房新社 ¥952-
帯には「紀元前の世界図から、衛星で観測する地球図まで。101 の謎が地図にかくされた歴史の光と影をあぶりだす。」とあります。写真が豊富です

例会の議事録

2008 年 6 月 4 日(水) 19:00~20:00 於 集会室 103-C
出席者 11 名(北野、大山、大西、鶴田(実)、半田(明)、高橋、川口、鈴木、羽鳥、森合、近藤) 順不同

内容: 5/31 の読図研修(大菩薩南西部)は天候不良の為に中止した。次回(秋頃)再計画する(北野) 地図整理の件、リストが完了し現在ケースの中身を移動中。「山」に報告。今後の扱いは未定だが第 1、第 3 水曜の作業は継続(近藤) ヒマラヤ環境調査トレッキングに参加した大西会員より報告。イムシャ湖(氷河湖)の水位上昇など(大西)(本文に詳細掲載) 同好会同期会連絡会議(6/16)出席予定(北野) 科学委員会主催の探索山行「富士山南面を科学する」が 6/14-15 行われる(北野) 終了後什番館にて懇親会(10 名)以上(文責・近藤)

お知らせ

報告 第 10 回同好会・同期会連絡会議開催

6 月 16 日(月)に上記 連絡会議があり AGC は北野代表が出席しました。内容は次回例会にて報告があると思いますが、事前資料の「年間活動計画」に次の内容を提出いたしましたのでお知らせいたします。(皆さんに諮る時間がなかった為近藤が独断で提出しました事をお許ください)

年間活動計画(平成 20 年 4 月~21 年 3 月)

- 1、読図研修(地形図を読取る訓練・18 段階にレベルを上げていく、現在 step5 まで終了)
定例会でデスクワークの上、フィールドワーク実施(本年中に step8 まで実施予定)
- 2、三角点、水準点等の測量遺跡の調査を兼ねた山行(2008/10 須坂基線調査予定)
- 3、古道、廃道の調査(会津西街道の峠道、保福寺峠の廃道調査など)
- 4、JAC 所蔵の旧版地形図の整理・リスト化(2 回/月実施中)
- 5、会員個人の山岳地理に関する独自テーマの成果発表
- 6、会報「AGC レポート」発行(月刊)

新規会員の紹介

鈴木宏治(14511) 中野区在住(4 月より正式会員)

故・今井貴美子さん所有の地図

6 月 18 日に地図整理をしている際、事務局から大正時代の地形図がごっそり持ちこまれました。三水会の会員が今井さんの書齋を整理していた時に出てきたそうです。処分を任せられましたので AGC で一端預かり、内容をチェックすることにしました。

次回の例会

日時 **7月2日(水)** 18:30 から 於:山岳会 ルーム
テーマ:山行報告 ほか
例会終了後、懇親会を予定しています
15:00 より地図整理を行っています

編集後記

> 前号の答えは国名の漢字表記でした 以色列(イスラエル) 玖馬(キューバ) 瑞西(スイス) 西班牙(スペイン) 越南(ベトナム) (kon)

AGC レポート vol-13 2008 年 6 月 25 日発行
発行:日本山岳会・山岳地理クラブ
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com